

常磐自動車道 双葉地区舗装工事 竣工

東日本大震災で中断していた常磐自動車道の舗装工事を再び当社が受注しました。平成26年5月から本格的に工事を再開し、平成28年6月までの工期を大幅に短縮して、平成27年3月1日に開通させることができました。この開通により常磐道は仙台まで全線が繋がりました。

工事区間の大半が帰還困難区域であり、除染したとはいえ9.5 μSv/h (50 m Sv/年超)以上の箇所もあったため、専用のつなぎ・マスクを着用しての施工でした。各自に線量計を携帯させて被曝管理も徹底したことで、無事竣工させることができました。

- 概要**
- **工事名**：常磐自動車道 双葉地区舗装工事
 - **路線名**：常磐自動車道
 - **工期**：平成25年10月1日～平成28年6月16日
 - **工事箇所**：福島県双葉郡楮葉町大字大谷 (STA.187+10)
福島県双葉郡楮葉町大字井出 (STA.194+30)
福島県双葉郡富岡町大字上手岡 (STA.293+00)
福島県双葉郡双葉町大字寺沢 (STA. 97+60)
 - **工事延長**：総延長 11,460m
土工延長 9,511m
橋梁延長 1,949m
 - **連絡等施設**：インターチェンジ 1箇所 (常磐富岡IC)
パーキングエリア 1箇所 (ならはPA)



セメント安定処理路盤施工後に震災を受け、ひび割れた着工前の状況



開通直前の状況 (左は路肩に設置された放射線量計)



最大で10t ダンプ50台/日、作業員200人/日を要しての舗装状況



全職員、全作業員参加による安全大会

現地担当者の声



所長
長井 伸芳

工期を1年以上前倒して完成させることができたのは、早期開通が復興への「希望の道」だという熱い思いが関係者全員の胸にあったからだと思います。

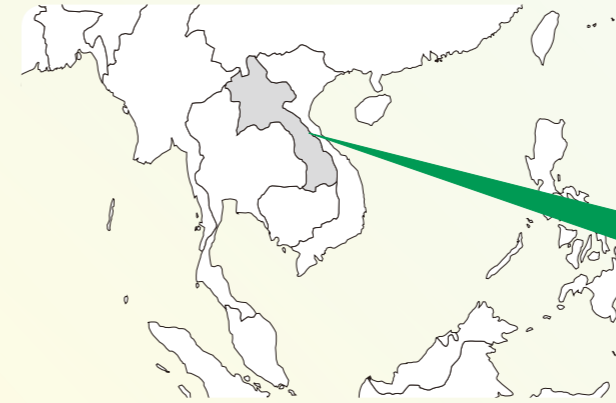
当社職員(総勢32名)やバックアップした本支店・各営業所だけでなく、過酷な現場の状況を理解した上で従事して下さった協力会社の皆様、非常に好意的に対応いただいた公官庁や地元の方々の協力あってこそ成しえた稀有な工事だと思います。皆さまに深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。



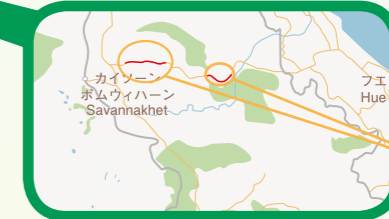
竣工 (常磐富岡IC付近)

ラオス：国道9号線整備工事 竣工

平成24年に(株)大林組・大林道路(株)JVがラオス9号線(メコン地域東西経済回廊)整備工事を受注しました。延べ58.1kmの区間を施工してきましたが、平成27年3月、無事に竣工しました。



施工位置図



施工場所

- 概要**
- **工事名**：ラオス国道9号線(メコン地域東西経済回廊)整備工事
 - **工期**：平成24年4月26日～平成27年3月15日
 - **工事場所**：ラオス人民民主共和国サバケット県
 - **工事概要**：既設舗装撤去 465,520㎡
掘削工/上層路盤撤去工 643,680㎡
路床盛土/路体盛土/路肩盛土 45,080㎡
下層路盤(t=25cm) 526,282㎡
上層路盤(t=10cm~25cm) 574,432㎡
基層/表層 1,067,252㎡



着工前



竣工後



路盤整正状況



舗装状況

現地担当者の声



工事主任
丸山 敦裕

最初に行ったことは、予算書の作成です。ラオス国内および周辺国のアスファルト商社や施工機械会社を熟知している現地スタッフとともに取り組みました。日本と異なる点は、採石場やプラント設置個所の選定および建設を行うこと、輸入方法、法律等について関係機関に赴き確認することなどでした。スタッフの雇用に関しては、契約した現地協力会社の知り合いや新聞およびラジオにて募集を行い、面接後契約をかわしました。

施工時における基本的な一日の流れを紹介すると、まずは朝6時起床、朝食後7時までに事務所に行き、配車打合せを行って8時までに現場へ。その後、午前中は12時頃

まで、1時間の昼食ののち午後は5時頃まで施工をします。それから事務所へ帰着後、協力会社のまとめ役を含む現場管理員で施工打合せを行い、日常書類作成後の19時~20時頃に業務終了というスケジュールでした。施工方法や品質・出来形管理などは日本と相違ないですが、安全管理では現地採用の作業員の意識を向上させるのに相当苦労しました。

私自身は初めての海外勤務であり、延べ2年3カ月の長期勤務でしたが、周りの職員にも恵まれ充実した業務を行うことができました。今後再び海外勤務となった場合は、この経験を生かし業務にあたりたいと思います。

広島豪雨災害復旧への取り組み

発注者：国土交通省中国整備局

工事名：広島豪雨災害支援（その15）工事



現場代理人
有馬 秋文

平成26年8月20日未明に広島市北部の安佐北区や安佐南区の住宅地を襲った大規模な土砂災害の仮復旧工事に8月26日から9月20日まで従事しました。

当社は、山から流出した土砂・大きな岩・流木等を水路から撤去する通水機能の回復と道路の仮復旧工事を担当しました。

露出した排水管・マンホール・流木・岩石等を搬出し、砕石敷きの仮設道路を構築したことで、被災者の帰宅、災害本復旧工事の着手が可能となりました。



施工状況

発注者：国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所

工事名：岡山東部保守工事



現場代理人
小井住 孝義

8月29日夕方、国土交通省岡山国道事務所の緊急出動の要請により岡山国道事務所管理災害支援車両とともに、先発隊として太田川高瀬分室（最前基地）へ移動しました。到着直後の30日午前0時頃より作業を開始し、24時間体制で災害復旧作業を行いました。

八木用水路の内、L=2350mが流出土砂の堆積により水路埋塞となり、更なる降雨による二次災害の発生が懸念されたため、作業は緊急を要しました。各企業との連携により9月3日に八木用水路の通水機能を確保することができました。



仮設道路完成

積水樹脂株式会社様とのコラボレーション

事業法人（株）みどり会が発行している会報誌「Midori」に技術研究所 東本崇室長と本店環境施設営業部 武田有加里職員が積水樹脂株式会社様と掲載されました。お互いの技術の取り組みについて話しながら施設を見学、座談会の様子を取り上げていただきました。

“未来の道路はフレキシブルに変化する!?” 2社がコラボすれば何か新しい物生まれるのでは…今後も交流を重ねて、夢の製品や技術を開発できればと考えています。



“道夢道 どうむどう”にて



皆さんと記念撮影



「2社の技術を合わせれば新しいタイプの道路が生まれるかもしれない」と夢が広がった座談会

「頼れる技能集団」機械センター職員による精度の高い施工

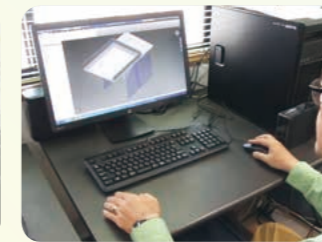
全国各地の施工現場で特殊な大型機械を操作して精度の高い施工を担う機械センターの職員は、まさに「頼れる技能集団」です。機械センターでは主に次の3つのメニューで若年者の育成を行っています。

機械オペレーターの育成

OJTの効率化や機械運転技能の伝承に一貫性を持たせるために、機種ごとの担当トレーナーが習熟度に応じた教育プログラムで若手を指導しています。



3DCADによる機械部品設計



高精度技術が求められるサーキットコースの舗設



開発したレベリングセンサ

本店移転プロジェクト ～担当者の奮闘記～

平成26年11月25日、当社本店は墨田区から千代田区猿樂町に移転しました。企業の移転は、個人家屋の引っ越しと全く違い、さまざまな手続きが必要になります。そこで、今回の移転作業がいかんにして始まり、そして終わったのか担当者の目線で追ってみることにしました。

課題解決の喜び



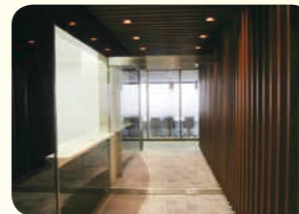
移転作業担当
畑 大輔

移転先ビルの現地調査、オフィスのレイアウト作成、備品の調査・整理、各部署の書類整理指導、LAN設備・電話システムの構築、社外発表手続きなど移転の準備作業を約3カ月担当しました。

最大の課題はオフィス面積が移転前より約16%減る点でした。「もったいない」を心掛けてなるべくリユースすることにした備品類と限られたスペースで、いかに仕事がしやすい環境を作るかに苦心して検討を重ねました。

書類整理は各部署の実数量と収納可能量を比較し、PDFによる電子化・外部委託・廃棄を組み合わせた計画を立て、進捗状況を綿密に確認しながら行いました。結果、移転先の収納可能量（書棚400個、段ボール2,000個）まで書類を減らすことができました。

この他にもさまざまな問題が発生しましたが、一つひとつ解決していくことに仕事のやりがいを感じ、自分自身の成長にも繋がっていると実感しました。



▲役員通路は、社長自ら計画段階から参画し、デザイン性に富む洗練されたものとなりました。



◀移転当日から円滑に業務が行えるよう、社内外的関係者と慎重に協議を重ね、各プロセスで漏れがないように進めました。



▶備品の搬入作業は2日間（昼夜間）におよびました。激しい雨の中、時間との戦いでした。



▼開所式も執り行われ、いよいよ新たな大林道路の歩みが始まりました。



▲交通アクセスが格段に良くなり、従業員はもちろん、お客様からも好評をいただいています。